

文化を通しての
まちづくり

こんな事業に取り組んでいます

アートスタート事業



乳幼児が初めてアートに触れることで、文化芸術に興味を示し、楽しさを学ぶことを通して、子どもの潜在的な可能性を引き出し、豊かな感性と創造性を育むことを目的に、乳幼児がアートに触れる機会を提供

- 「植えるArt」と「おここのじかん」の2種類の催しを中心に開催
- 「植えるArt」では、陶芸館で植木鉢を作陶し、約3か月後に焼きあがった植木鉢に舞鶴産の花苗を植え付ける
- 「おここのじかん」は、おここの演奏を聞いて、見て、触れる体験



アート・プログラム・デリバリー事業



子どもが文化に出会う機会を作る取り組みとして、幅広い分野で活躍しているアーティスト(芸術家)が、直接学校へ出向き、文化芸術の鑑賞や体験をする場を設定し、児童・生徒の感性や創造力を養うとともに、将来の文化芸術の担い手や鑑賞者を育成するために実施

- 講師：市内で活躍しているアーティスト(芸術家)
- R5年度プログラム：箏、大正琴、ダンス、合唱・身体表現、書道



舞鶴市展



市民参加の展覧会を開催することで、生涯学習の推進並びに個性豊かな市民文化を創造し、向上させる

- 舞鶴市展2023**
- 日時：6月10日(土)～18日(日)
 - 場所：総合文化会館
 - 部門：洋画、日本画、書、写真、工芸美術
 - 問い合わせ先
同館(☎64・0880)



文化の見本市



子ども達がさまざまな文化を実際に体験することで、文化の魅力の気付きや発見の場となり、一人でも多くの子どもへ文化を継承するきっかけづくりとする

- 舞鶴市文化協会協力のもと、加盟団体が講師となりさまざまな文化体験を実施
- 対象：小・中学生
- 参加者：R4年度 259人(延べ)
- 体験内容：R4年度 俳句、尺八、お箏、三味線、吹奏楽、大正琴、ギター、ダンス、フラダンス、クラシックバレエ、絵画、華道、茶道、演劇、ミニ着物作製、陶芸、服飾



文化を通して まちを描く

第2次舞鶴市文化振興基本 計画を策定

豊かな自然環境や文化資源をまちづくりに生かし、市民一人ひとりが文化芸術を通して人生を豊かにして「住み続けたいまち」「訪れたいまち」にしていくためには、文化を取り巻く環境を整えることが大切です。市では、こうした環境を整え、市民との協働により取り組む文化振興の方向性を示す「第2次舞鶴市文化振興基本計画」を策定しました。「すべての市民が文化を楽しみ、創造できるまち 舞鶴」「まちを誇りに思い、愛着が感じられる文化都市 舞鶴」を基本理念に、さまざまな文化振興施策を通じて子どもからお年寄りまで、全ての市民が魅力を感じるまちづくりを進めていきます。

計画の策定に携わった2人に伺いました

平等に提供されるべき文化芸術

文化芸術は、暇やお金、体力、社会関係に恵まれている人の余暇活動ではありません。基本的人権の1つであり、全ての人に平等に与えられるべきものです。時間的にも経済的にも恵まれた環境の人は自ら文化芸術を求めることができますが、そうでない人はなかなか難しい。そうした人々への文化芸術の提供を行政は考えるべきで、行政として全ての人の文化芸術に触れる機会を保障できるよう努める。それがこの計画の肝になっています。どれだけ均等に機会を提供できたか、抜け落ちている人はいないかなど、定期的に文化振興政策を評価していくことも計画に盛り込みました。ヒット曲1つで経済的な豊かさを手に入れられる可能性のある今の時代、作詞や作曲、脚本を書ける若者がもっと出てきてもおかしくない。文化芸術教育の均等は職業選択の可能性を広げることに繋がります。舞鶴市民の文

化芸術活動のレベルは、他市町村と比べてもかなり高いレベルに達していて、各分野に優れた才能と実績を持っている人がいます。舞鶴も全国と同じく世代間のつながりが弱くことが課題ですが、舞鶴市には文化振興条例があり、その中には基本的人権の発想も入っているなど、土台はしっかりしています。この計画を軸に今後さまざまな事業が実施され、市の文化振興がさらに進んでいくことを期待します。

文化振興審議会
委員長
中川 幾郎さん



文化芸術に触れてもらう機会作り

計画には「文化に参加する」「文化をつくる」「文化でつながる」「文化を育てる・支えるしくみをつくる」「まちづくりに文化を活かす」「舞鶴らしい文化を発信する」の6つの文化振興の柱が定められています。この6つの柱と計画の理念に基づきさまざまな事業が行われることとなりますが、これらに向けてまず行わなければならないのは、文化の入り口のハードルを下げるのだと思います。「文化の見本市」はまさにいろいろな文化やその楽しみ方を知

ることができる入り口になると思います。その後はどう文化とつながり続けてもらうかが難しいですが、指導者が本当の意味での楽しさを教えられるのが大切ですね。ちゃんとした技術がついて上手になっていく、頑張ったからこそ分かる楽しさです。「アート・プログラム・デリバリー事業」として学校の授業に行きますが、授業時間内に生徒と一緒に1つの曲を完成させます。それは達成感と満足感を得ることが大切だからです。「アートスタート事業」は始まった当初は全然参加者が集まりませんでした。今は募集開始30分で定員が埋まります。赤ちゃんのころから文化に触れる、そして「デリバリー」「見本市」などでさらに文化に触れていく。文化を育み、それが結果として現れるには長い年月がかかりますが、文化はより良く生きていくための方法の1つですので、ぜひ興味を持ってほしいと思います。

文化振興審議会
委員
立道 明美さん

